地区広報
芸術の森

題字　平澤　博

第13号
平成21年1月30日
発行　地区広報・芸術の森
編集委員会
印刷　(株)辻　孔　版　社

年頭のご挨拶

札幌市南区長　**秋　元　克　広**

新年明けましておめでとうございます。年頭にあたり謹んでご挨拶申し上げます。

日頃より、芸術の森地区の皆様には、南区のまちづくりの推進に特段のご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

札幌市では､｢市民の力みなぎる文化と誇りあふれる街｣を目指して様々な施策・事業を行っておりますが、南区におきましては、まちづくりの主役である住民の皆様方が、熱心に協力し合いながら地域活動に取組まれており、「自分たちのまちのことを、自分たちで考え、決めて、行動していく」市民自治の歩みが着実に進んできているものと実感しているところでございます。

特に、芸術の森地区では、「新まちづくりビジョン」に基づき計画的に各種事業が行われており、「もりの仲間の子どもを見守るネットワーク」や「もりの仲間の子育てサロン」、「もりの仲間のこまおか朝市」など、地域に住む子どもからお年寄りまで、安心・安全に生活することができるまちづくり活動に熱心に取り組まれております。

さらには、国道453号線沿いの植栽活動をはじめとして、冬季間は、地区内の施設などへのイルミネーション装飾や、雪に親しむ事業「雪あかりの祭典」が行われるなど、地域と札幌市立大学、札幌芸術の森や札幌南老人福祉センターなど関係組織・団体とが連携を図りながら、シーニックバイウェイ事業に積極的に取り組まれており、今後さらなる充実が期待されるところでございます。

南区といたしましては、今後とも様々な機会を通して、皆様方のご意見をいただきながら、地域に根ざした“まちづくり”に取組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、芸術の森地区町内会連合会をはじめ、各種団体の益々のご発展と、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。

「住んでよかった」と評価される地域を目指して

芸術の森地区町内会連合会
会　長　関　口　　明

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願い申しあげます。

当連町においては、新まちづくりビジョンに沿って諸活動を地域の町内会や関係機関、団体のご協力を得て進めて参りました。

昨年は、大きな交通事故や子ども達が事件に巻き込まれることもなく経過いたしました。これも偏に交通安全啓発活動や子ども見守り重点週間等への皆さんの参加など、地道な活動が実を結んだものと心から感謝申しあげます。

本年は、当地区の文化祭が15回目、同音楽祭が14回目の開催となります。関係する皆さんの一層のご協力をお願いいたします。

今冬は雪あかりの祭典も３年目を迎えます。芸術の森周辺エリアをはじめ駒岡エリア、石山緑地エリアの３エリアでは、１月24日、２月５日および２月７日、８日にそれぞれイルミネーションやアイスキャンドル、子ども向けイベントなどが盛り沢山企画されております。地域の方々にはご多用中とは思いますが、是非お越しくださいますようお待ちしております。

冬はイルミネーション・雪あかりで寒さを吹き飛ばしましょう。

より良い「福祉のまち構築」のために

地域ぐるみでお互いに支えあう環境づくりを目指し、誰もが安心して暮らせる組織づくりを

芸術の森地区社会福祉協議会

会　長　**伊　藤　　正**

明けましておめでとうございます。輝く、新年を迎え年頭のご挨拶を申し上げます。

日頃、地域の福祉活動に対しましては、格別のご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

お陰さまで、各部の事業は、地域の皆様方のご協力により三世代交流、子育てサロン、さわやかクラブなど活発な活動が行われております。

近年、社会情勢の高齢化等に伴う見守り活動等の対応は、地域が一丸となった取組みが必要であり、本年度は、南区社会福祉協議会の指定も受けております「福祉のまち推進センターの運営」と「各町内会の福祉推進員の組織化」の推進が重点活動であり、特に、小地域（単位町内会）でのネットワーク化を図るため、６月から12月にかけて、世帯数の多い７町内会と打合せ会を開催し、「現状と今後の課題」の把握に努めたところであります。

より良い「福祉のまちを構築」するためには、「社会福祉協議会」の活動母体であります、福祉推進員等を中心とした地域でのネットワーク化（組織体制）と活動拠点としての「福祉のまち推進センター」の組織運営の整備が急務と考えられます。

今後は、お互いに支えあう環境づくりを目指し、誰もが安心して暮らせる組織づくりを図る所存でありますので、皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

新年あけまして　おめでとうございます

芸術の森地区青少年育成委員会

会　長　**前　口　敦　司**

年頭にあたり謹んでご挨拶を申し上げます。

日頃から芸術の森地区の皆様には育成委員会の活動に特段のご理解とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

我々の活動の趣旨は、各イベントを通して実際に子供達と接し、子供の目線で考えていくことにあります。そこに心の悩みや環境の問題点を見つけることが出来ると考えるからです。また、人の心の温かさや優しさも感じてほしいと思っています。さて、本年度の委員会活動ですが、小学生スキー教室、交流もちつき大会、親善スポーツ大会、地区パトロールなどを例年通り行う予定です。今年は委員改選後２年目ということで委員の皆さんも慣れ、今年の活動も更にパワーアップできると思います。

最近は社会全体が複雑な世の中になっています。しかし子供達には真っ直ぐ前を見て、いつもキラキラした瞳でいて欲しいものです。そのためにも地域の方々全員で育てていく事が大切だと思います。我々委員も一致団結して活発な委員会活動を進めて行きたいと思いますので皆様方のより一層のご協力をお願いいたします。

最後になりますが、皆様方のご多幸を心からお祈り申し上げて、年頭のご挨拶といたします。

芸術の森地区「秋の子どもを見守る運動」

防犯・防災部、交通安全部、交通安全母の会

昨年10月24日、３回目を迎えた「秋の子どもを見守る運動」が行われました。

連町各関係部・会をはじめ、各地域役員、学校などから80名ほどの参加をいただき、「地域の子どもは地域で守る」という意識の高さが察せられました。

・「110番の家」のいざという時の対応要領
（矢嶋石山東小学校教頭先生）
・見守り活動の継続方法（提案）　（藤井少年補導員）
・各種犯罪の発生状況と対応　（新名南警察署生活安全課長）

についてお話をいただき、改めて各種事件・事故の対応の重要性を再確認したところです。

このあと、地区会館前（R453沿い）で啓発を行い、更に全員で地区内小・中学校（4校）まで同様啓発行進を実施して交通安全を呼びかけました。

参加された皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、当集会などでのお話や意見交換内容を含めて、今後の見守り運動に広く生かしていくことが出来れば幸いです。

平成20年度 芸術の森文化祭について

芸術の森地区町内会連合会
文化部長　塩崎　典男

平成21年を迎え皆様には益々ご健勝の事とお慶び申しあげます。

昨年11月２日と３日の２日間に渡って行われました第14回芸術の森地区文化祭は、実行委員会の皆様の献身的ご努力のおかげで成功裡に終了することができました。

又、作品出展にご協力頂きました３団体の皆様をはじめ関係諸団体の皆様に対し誌上をお借りし衷心より厚く御礼を申し上げます。

さて、文化祭出展が144作品、出展者数は44名となっており、参加団体は３団体、出展参加は９町内会となっております。

第14回文化祭の特徴は、第13回文化祭では1Ｆで展示されていた写真展を、２Ｆでスライドで上映したことです。

芸術の森地区の風景を出展者単位にまとめられた写真を、BGMを背景に映し出し、お茶やコーヒーを飲みながら観るという初めての試みは観賞された皆さんに好感を持たれたのではないかと感じました。

会場の様子については写真で紹介しましたが、会場一杯に展示され、見応えのある内容となっていました。

文化祭が芸術の森地区全体の文化の高揚に寄与できれば幸いであります。

平成21年度は更に充実した文化祭となるよう関係各位の一層のご理解とご協力をお願いし、報告とします。

第13回 芸術の森地区音楽祭　長年の努力が美を結び出演者のレベルが向上

11月16日、芸術の森アートホールで開催された音楽祭は、手作り音楽祭として開催も13回目を迎えるまでになりました。

当日は、心配していた天候にも恵まれ、来場者の出足も好調でした。小学生や学校での合唱コンクールで金賞受賞の中学生による合唱、吹奏楽、弦楽三重奏、ジャズ、琴、尺八、民謡など幅広いジャンルからの出演がありました。

素晴らしい歌声・呼吸の合った演奏は、聴くものに訴えかけるものがありました。感動の時に加え、小学生の小さな体を包むお洒落な洋服、ジャズバンドの制服など家族の心意気が感じられ、ホッとする一時でもありました。住まいの近くに立派な音楽ホールがあり、そこで演奏できることは日々の生活に大きな影響を与えることでしょう。参加・来場者延べ800名。

この手作り音楽祭が、地域の皆様のご協力で末永く続くことを祈念しつつ……

駒岡小学校

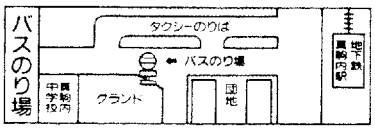
常盤中学校　合唱

芸森ジャズバンド

永久に生きる花と緑の明るい聖地
真駒内滝野霊園
札幌市許認可霊園

無料 見学・墓参バス運行中

時間
午前 10:00
午後 12:00
午後 2:00



お問合せ・お申込みは 真駒内滝野霊園事務所 ☎(011)592-1223(代表)

芸術の森地区 雪あかりの祭典

芸術の森地区町内会連合会
企画部長　島　田　三千春

芸術の森地区の雪あかりの祭典は、今年で３年目を迎えました。

イルミネーションについては、昨年同様12月に入ってから各地域の施設・家庭で点灯されて、地域の方々や訪れる人たちの目を楽しませています。イルミネーションの点灯は、国道453号線沿いに２月下旬まで、また、イベントとしては１月下旬から２月上旬にかけて昨年同様の、芸術の森・石山緑地・駒岡地区に分かれて行なう予定です。

現在、認定準備を進めている「札幌南シーニックバイウェイルート運営代表者会議」も、「地域づくり」「景観づくり」「観光空間づくり」の上からも、南区の各地域で行なわれている「雪あかりイベント」をバックアップしており、「冬を楽しめるイベント」になって欲しいと思います。

芸術の森地区雪あかりの祭典　イベント

★１月24日（土）　札幌芸術の森（10:00～12:00）
札幌市立大学（12:00～19:00）
関口雄揮記念美術館
常盤児童会館

★2月5日（木）　駒岡小学校スノーフェスティバル（18:30～20:00）

★2月7日（土）　南老人福祉センター・石山緑地スノーフェスタ（16:00～19:30）

～8日（日）　南老人福祉センター・石山緑地スノーフェスタ（10:00～12:30）

安心できる地域に住んでいたい

火災報知器の設置は終えましたか？

防犯・防災部から

暖房機器を使用する時期「火災予防」に、ご注意を

札幌市内の状況（平成20年１月～10月20日の間）
火災による死者９名（前年８名）
（住宅用火災警報器の設置をお薦めします）
放火108件（前年95件）、火遊び39件（前年26件）
南区の火災発生件数55件（前年42件）

大切な、いのち、財産をまもるのは自らの手で。
（12月は年末特別警戒期間でしたが、引き続き警戒を）

新年を迎えて一言（安心して暮らせる地域を願い）

①振り込め詐欺、タイヤドロボウなど手口がますます複雑巧妙化しており、各町内で回覧しても次は新たな手口で被害、常に後手後手で、ドロボウの悪戯に追いつかないのが現実です。
高齢者の被害が多い。隣近所でお互いに注意の声かけを是非期待します。
どうぞ、うかつな行動をとらずに警察に相談してください。

②昨年は台風に遭遇せず、異常気象も心配されます。
大雪に備えての準備は万全ですか？市の除雪要領も変化が予想されますし、路上駐車は除雪の妨害ばかりでなく、事故防止の面からも是非止めましょう。
無落雪（屋根）住宅の方：屋根の落ち葉・ゴミの清掃、雪の重さと地震の恐ろしさを予想して先手の処置などを提案します。

入所サービス
ショートステイ
みなさまの想いにおこたえいたします
通所リハビリテーション
医療法人 愛全会
介護老人保健施設
アートヒルズ
〒005-0849　札幌市南区石山837-47
居宅介護支援事業所併設（ケアプラン作成）
0120 FreeDial 0120-348-365

今年7月から有料化となる ごみ収集に関する研修会

会場は熱気に包まれました

女性部・環境衛生部　合同研修会

去る10月８日（水）、本年７月から実施されるゴミ有料化に関し研修会を実施しました。

講師には、札幌市南清掃事務所普及担当係長　佐藤邦博様と同指導員　長坂邦幸様が来られ、ゴミパト隊の２名の方の紹介もありました。

すべてが有料化されるのではなく、燃やせるゴミ・燃やせないゴミが有料化の対象となり２円／ℓ（５ℓの袋10円、10ℓの袋20円、・・・・40ℓの袋80円）の袋を店で購入し、ゴミだしをすることになります。資源ごみとしてのプラスチック・ビン・缶・ペットボトルについては分別の上、今まで使用の（半）透明袋で出すことになります。子育て支援・介護支援は考慮され、減免対象として考えられているとのことです。今年の６月ごろには「ひと目でわかるゴミわけガイドブック」（今、私たちは平成20年７月発行のガイドブックを使用していますが）が各戸に配布されるそうです。

定着するには、時間を要しトラブルも考えられることから、ゴミパト隊を配し、最終的には10名の配置を考えているそうです。

この研修会はもっとも身近なテーマとあって、参加者は61名、２階会議室は満員となり、質問者も多く、熱気に包まれた研修会となりました。（文責M）

「芸術の森地区・体育指導委員」の交替

昨年９月に亡くなられた古内昭さん（「地区広報芸術の森」12号訃報参照）に代わり、このたび、白木義克さん（常盤体育振興会・事務局次長）を推薦いただきました。

今後、連町等の体育事業は、石山東町内会の三原和幸さんとお二人でご協力いただくことになりましたので、ご紹介いたします。

白木さん、よろしくお願いいたします。

12月4日　社会福祉協議会主催

「宮澤 仁朗先生」の講演から

認知症抑える新薬　将来出現

去る12月４日、芸術の森地区会館において、芸術の森地区社会福祉協議会（会長 伊藤　正）主催の「認知症の理解と対応」と題して宮澤　仁朗氏（ときわ病院 院長）の講演がありました。

先生のお話では、日本における認知症高齢者の人口は、札幌市の人口にも相当するおよそ180万人と推計されていて、高齢化が進行することから益々増加すると言う。

認知症とは、脳の神経細胞が死ぬ事によって起る病気で司令塔の働きをする脳の誤作動によって異常な行動を起す状態。認知症の主な原因疾患の内訳の45％がアルツハイマー型、30％が脳血管性、10％がその両者の混合型、残りの15％がその他の原因によるものです。

代表的な認知症であるアルツハイマー型と脳血管性認知症についてお話されました。アルツハイマー型認知症では、次第に物忘れが進行し、職業につかれている人では、仕事の能率が落ちるなどミスが多くなり業務に支障を来たすようになります。主婦であれば料理の味付けが変になる、買い物ができず家庭生活に支障を来たし、家族に気付かれるようになるという。

次に脳血管性認知症についてお話されました。脳梗塞、脳出血、脳動脈硬化などによって引き起こされる事が多く、経過は段階状に進行する。症状を大別すると、記憶障害（新しく経験した事を記憶にとどめることが困難になる）。感情障害（暴力、暴言、興奮と言った症状であらわれる）。見当識障害（ここはどこで今が何時なのか分からなくなる状態）などが見られる一方、古い事は覚えているので「まだら認知症」とも呼ばれている。

認知症治療薬として、アルツハイマー性認知症には、「塩酸ドネペジル（商品名・アリセプト）」が用いられ、脳血管性認知症には、漢方薬の抑肝酸が使われています。世界の製薬会社が競って新薬の開発と取り組んでいるので、近い将来、認知症を抑える新薬が出てくるとの事でした。もっとも大事なことに、健常者は認知症を理解し、受け入れ、本人を穏やかにさせる事だと言われました。

（文責　広報啓発部長　馬場　宏）

「福祉推進委員会」の組織化とは

芸術の森社会福祉協議会
福祉推進部長　塩崎　典男

平成21年を迎え皆様には益々ご健勝の事とお慶び申しあげます。

さて、単位町内会における「福祉推進委員会」についてですが、昨年組織化のための各町内会との調整の結果、６町内会で組織化のための準備が着々と進められているところです。

単位町内会における「福祉推進委員会」の活動ですが、少子高齢化が一段と顕著化する時代となっている今日、後期高齢者医療制度の新設や介護制度の見直し等、高齢者にとっては非常に暮らしずらい世の中となってきています。本来福祉は制度ですから国の問題であり地域だけで何とかなる問題ではありませんが、行政だけでは手の届かないところを補うボランティア活動といえます。

そこで、地域のご近所の皆さんの力を借りて、困っている高齢者の皆さんに対し、少しでもお役にたてるようお手伝いをするボランティア活動の組織として考えています。

福祉に対する考え方は色々あると思いますが、フィンランドのように高負担、高福祉がよいのか、日本のように低負担、低福祉でよいのかと問われれば迷う方が多いと思いますが、福祉の基本は社会的弱者に光を当てることではないでしょうか。

フィンランドでは、教育費は小学校から大学まで全て無料、更に医療費も無料、失業しても前職の90パーセントの賃金が保証されており、国民の高負担についての質問に対し「福祉で戻ってくるので、まったく問題はない」と答えています。

負担の分が福祉で戻ってくることが国民に受け入れられている背景には、税金の使途に対する「信頼関係」が成立しているからに他なりません。

残念ながら現在の日本では、基礎年金だけでは生活が成り立たない金額であり、厚生年金分を上乗せしてもぎりぎりの生活を支えるだけ程度の金額となっていて、病気でもしようものなら直ちに生活が出来なくなるのではないかと、不安が広がる実態となっています。

地域で福祉活動を進める時、１番の問題は、誰にも相談できないでいる一人暮らしの高齢者に対する見守り活動ではないかと思います。

活動の基本は「信頼関係」でありますから、ご近所の方同志の日常的な付き合いの延長線上にあることが望ましいのはそのためです。

平成21年度は組織化が実現し、自分の住んでいる所でお互いに見守り、見守られる、そんな活動が根付いてくれるように一層のご理解とご協力をお願い致します。

最後に、皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げます。

保養センター駒岡の「朝市」について

ふれあい部　野中　晴彦

閑静な駒岡地区で、地区居住者の利便性の向上や、農産物等生産者とお客さんとのふれあいを意図してはじめられた「こまおか朝市」も、早いもので４年目を迎えました。この間、特に高齢者を含めた多くの方々に愛され、昨年も前半期だけでも3,758名のおいでを頂きました。

ただ、寒さの厳しいこれからは、利用される方も少くなりますが、駒岡清掃工場の余熱を利用した熱帯植物館を会場とし、お客様が気楽に寛げる「朝市」として、知恵を絞ってまいりたいと思います。

またこの季節は、「朝市」に提供される品揃えにも苦労していますが、あまり成果の上がらない日は、提供するオーナーさん同志やボランティアさんで、相互に買い物をし合って“売り上げに協力”もしているところです。更にコンビニエンスストアやスーパーチェーンストアが乱立している今日でも、敢えて「こまおか朝市」に足を向けてくださる熱心なお得意さんの心情を察するうえからも、当朝市の更なる繁昌を期してまいりたいとも考えております。

今後とも、「こまおか朝市」にお運びいただき、ご支援ご協力のほどをお願い申し上げます。

サンタさんと記念撮影

子育てサロンのクリスマス会
ボランティアさん大活躍

―もりの仲間の子育てサロン―

準備中

去る12月17日恒例のクリスマス会が開催されました。綺麗にかざり付けられた大きな木の前で、子どもたちはサンタクロースの登場を待ちます。鈴の音とともに登場したサンタさんと記念撮影。手作り人形や絵本のプレゼントがありました。

サンタさんのボードビルを見るこどもたちの表情は輝いていました。絵本の読み聞かせもあり、ボランティアさん手作りのケーキをいただいた後、クリスマスソングを合唱して終了となりました。参加者数67名。この日のために準備されたボランティアさん・老人福祉センターの皆さんの暖かい気持ちが伝わってきた一時でした。（文責M）

見て見て!

サンタさんからプレゼント

うわー!

介護予防で元気ハツラツ!!
「もりの仲間のさわやかクラブ」を実施して

高齢者支援部長　清水　　勲

芸術の森地区社会福祉協議会が実施している「もりの仲間のさわやかクラブ」は、「共同募金配分事業」による助成事業として、平成18年度から３ヵ年で22回（本年度は３月開催予定の１回を残している）の開催となり、参加人数は約440人（延べ）になります。

この事業の目的は、高齢者の閉じこもり（孤立化）防止、高齢者相互や地域住民との交流促進、「介護予防意識」の普及促進、専門機関（介護予防センターなど）との連携の強化、地域内の高齢者福祉施設（保養センター駒岡）の利用促進などです。内容は、「もりの仲間のこまおか朝市」での買い物と出店者などとの交流、南区介護予防センター石山・芸術の森の協力による講話、転倒防止・認知症予防体操、血圧測定と日常生活相談などの「介護予防教室」、芸能ボランティアの出演による芸能鑑賞、入浴・昼食の提供などで、時間配分的には「介護予防教室」に重きを置いたものでした。

これからは、高齢者自らが、自分の基礎体力や諸機能の現状を認識し、それらの補強・維持に努め、介護予防を意識しての日常生活が必要だと思います。このようなことを視点とした、事業を考えたいと思います。

「フマネット運動」
転倒防止・記憶力維持に効果がある。
（楽しいよ！）

地域の少年野球チーム
石山フオックスに注目！

少年野球チーム石山フオックスは、去る７月12日･13日開催された第16回喜茂別町長旗選抜少年野球大会で見事、優勝をかちとりました。

現在の部員17名（小学２年～６年生）。シーズン中はひがし公園での毎日の朝練、冬季間は週５日、石山東小学校体育館でトレーニングをしているとのこと。その成果が今回の結果に結びついたのでしょう。

地域のお父さんたちが熱心に関わってくれた賜物ともいえるでしょう。監督のほか５名のお父さんコーチがいるそうです。このチームは創立31周年、長い歴史をもっていますが、少子化はここも同じで、目下新しいチームメイトを募集しているそうです。（文責M）

第37回 南区少年少女親善スポーツ大会

昨年11月24日（月）南区体育館で、全22チームが中・高学年に分かれ、トーナメント方式によるドッヂボール大会が行われました。

芸術の森地区から石山東小学校、常盤小学校から各２チームの４チームが参加して白熱した試合で、「ときわYES－A」チームが優勝し２連覇を、芸術の森地区として４連覇を達成しました。

選手の頑張りと、家族、学校、地域、コーチの皆さんの協力のおかげです。

来年の５連覇に向け、来年もよろしくお願いします。

おもちつき大会

昨年12月14日（日）常盤児童会館において、もちつき大会が行われました。地域の方々、札幌市立大学の学生さんのお手伝いで、地域のご家族や、「グループホームときわの森」のお年寄りの方々も来られて、つきたてのおもちを味わっていただいたり、お子さんのもちつき体験等、楽しいひと時を過ごしました。

Fu′sで「初心者スキー教室」開催

青少年育成委員会

１月17日、藤野のFu′sスキー場において、「初心者スキー教室」を開催しました。参加した駒岡小、石山東小、常盤小の子供たち39名は、優しい指導員のおかげで、徐々にうまくなり、最後はリフトに乗って中級コースも降りられるほどに上達しました。また、昼食にはカレーライスも用意され、楽しい１日でした。

福祉を支える人　松田 正輝さん

プロフィール
（まつだ・まさてる）
1940年10月（昭和15年）中国山西省太原市にて、出生。JR北海道2000年（平成12年）10月退職。常盤団地在住。

平成12年、札幌市は「福祉除雪」を提唱しました。70才以上で一人暮しか、身体障害のある方、または、区社協で特に認めた世帯を対象にするものでした。

私は、退職していたと言う事もあって、進んで手を上げたので、町内会の福祉推進員になりました。

平成13年には、町内会長と私を含め６人で体制を作りました。現在、９人の一人暮し高齢者を９人のボランティアで「福祉除雪」を支えています。除雪を通じて声かけ、見守りで支え合う地域づくりに役立っているとすれば嬉しいことです。

時代でしょうか「プライバシーや個人情報保護の意識が高く、これが近隣での助け合いを難しくしている」ことは残念な事です。

住み馴れた土地で何時までも住み続けたいという思いは皆さんと同じで、「私も体力の続く限り除雪ジョンバーを持ち、昔のように“向こう３軒両隣”と、仲良く付き合って生きて行きたい」と思います。

おめでとうございます

芸術の森地区民生委員児童委員協議会
厚生労働大臣賞受賞

芸術の森地区民生委員児童委員協議会は「多年にわたる民生委員活動の実践を通じて共に支えあう地域社会つくりに貢献した功績」に対し、平成20年度全国社会福祉大会で民生委員優良活動団体として厚生労働大臣賞を受賞されました。

このたびの受賞は、北海道内で僅か１団体という正に栄えある受賞となりました。去る11月７日には斉藤公博会長が東京日比谷公会堂における授賞式に参加し、賞状を授与されました。

今後、当団体のますますの活躍が期待されます。　（文責M）

◆札幌市長表彰（以下 敬称略）
- 石山東町内会　クリーン札幌実践模範地区（12月６日）
- 見晴町内会　自主防災活動の功績（１月15日）

◆南区クリーンさっぽろ衛生推進協議会会長表彰
〈地区ボランティア功労者〉　（12月１日）
- 石山八区町内会　小熊哲也
- 石山東町内会　宍戸金光

札幌市立高等専門学校 卒業・修了制作展'09

第14回本科卒業制作展、第12回専攻科修了制作展を開催いたします。大丸藤井セントラル７Ｆスカイホールでの《プレ展》、卒業生・修了生全員の作品を展示する本校での《本展》、両会場共に若々しいデザインの力があふれています。この３月に卒業、修了するデザイナーの卵達が丹精を尽くした学習成果をぜひご覧下さい。

<プレ展>
［期間］2月10日（火）～2月15日（日）
［時間］10：00～19：00
（最終日は17：00まで）
［会場］大丸藤井セントラル７Ｆスカイホール
（札幌市中央区南１条西3丁目）
地下鉄「大通駅」下車

<本展>
［期間］2月17日（火）～3月7日（土）
［時間］10：00～17：00
（最終日は12：00まで）
※2月25日（水）は休み
［会場］札幌市立高等専門学校
（札幌市南区芸術の森１丁目）
地下鉄「真駒内駅」より中央バス２番乗場乗車市立高専・大学前下車徒歩２分

＜問合せ先＞札幌市立高等専門学校
Tel：592-5400（代表）
http://www.sapporo-sa.ac.jp

編集後記

あけまして、おめでとうございます。

当紙は、３紙（「やませみ」「ばんけいぬま」「森のこえ」）を統合して地区広報「芸術の森」を創刊し、以来６年目となります。

「統合」は、「（機能を高めるために）一つのまとまりのあるものにする」とありますが、果たして字句どおりに進められているのでしょうか。

何はともあれ、今後とも初心に立ち返り、”知りたい情報をわかりやすく発信する”“紙面を通し意見交換・交流の場とする”ことを旨として、更に「明るい紙面へ」と努めてまいります。

何卒、前年同様のご協力・ご投稿をお願いいたします。

編集委員長　堀川　昭八　　委　員　火山　正己
副編集委員長　三上　良子　　会　計　佐藤　宗昭
委　員　佐々木智明　　監　事　馬場　宏